

## 三島村の給与・定員管理等について

### 1 総括

#### (1) 人件費の状況（普通会計決算）

区分	住民基本台帳人口 (19年度末)	歳出額 A	実質収支	人件費 B	人件費率 B/A	(参考) 18年度の人件費率
	人	千円	千円	千円	%	%
19年度	389	1,850,687	15,099	231,301	12.50	13.90

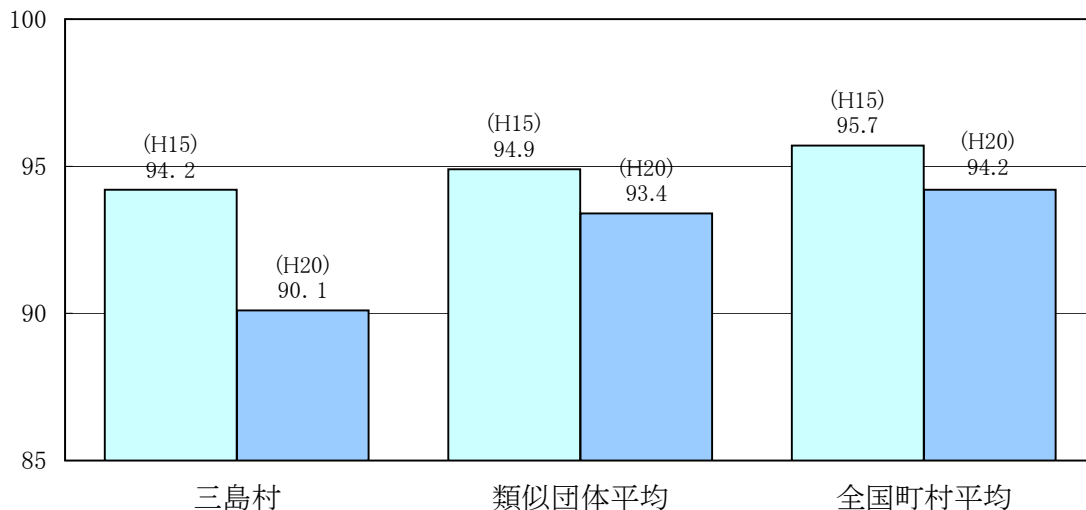
#### (2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

区分	職員数 A	給与費				一人当たり 給与費 B/A	(参考)類似団体平均 一人当たり給与費 千円
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
	人	千円	千円	千円	千円	千円	
19年度	29	99,811	14,748	42,707	157,266	5,423	5,757

- (注) 1 職員手当には退職手当を含まない。  
2 職員数は、平成20年4月1日現在の人数である。

#### (3) 特記事項

#### (4) ラスパイレス指数の状況（各年4月1日現在）



- (注) 1 ラスパイレス指数とは、国家公務員の給与水準を100とした場合の地方公務員の給与水準を示す指数である。  
2 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものである。

(5) 給与改定の状況

①月例給

区 分	人事委員会の勧告				給与改定率
	民間給与 A	公務員給与 B	較差 A-B (%)	勧告 (改定率)	
○年度	円	円	円 (%)	%	%

(参考) 国の改定率	%
	0

(注) 「民間給与」、「公務員給与」は、人事委員会勧告において公民の4月分の給与額をラスパイレース比較した平均給与月額である。

②特別給

区 分	人事委員会の勧告				年間支給月数
	民間の支給 割合 A	公務員の 支給月数 B	較差 A-B	勧告 (改定月数)	
○年度	月	月	月	月	月

(参考) 国の年間 支給月数	月
	4.50

(注) 「民間の支給割合」は民間事業所で支払われた賞与等の特別給の年間支給割合、「公務員の支給月数」は期末手当及び勤勉手当の年間支給月数である。

**2 職員の平均給与月額、初任給等の状況**

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況 (20年4月1日現在)

①一般行政職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
三島村	47.0 歳	337,800 円	400,000 円	364,086 円
鹿児島県	43.7 歳	333,700 円	405,258 円	371,092 円
国	41.1 歳	325,113 円	—	387,506 円
類似団体	42.9 歳	320,039 円	356,322 円	351,543 円

②技能労務職

区 分	公 務 員					民 間			備 考 A/B
	平均年齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額 (A)	平均給与月額 (国ベース)	対応する民間 の類似職種	平均年齢	平均給与月額 (B)	
三島村	51.1 歳	3 人	230,900 円	249,900 円	249,900 円	—	—	—	—
うち 用務員	51.1 歳	3 人	230,900 円	249,900 円	249,900 円	用務員	52.0 歳	351,395 円	0.7
うち	— 歳	— 人	— 円	— 円	— 円	—	— 歳	— 円	—
うち	— 歳	— 人	— 円	— 円	— 円	—	— 歳	— 円	—
鹿児島県	46.6 歳	650 人	325,300 円	383,412 円	359,513 円	—	—	—	—
国	48.9 歳	4,784 人	284,679 円	— 円	320,623 円	—	—	—	—
類似団体	49.2 歳	4 人	281,976 円	304,305 円	299,708 円	—	—	—	—

区 分	参 考 年収ベース(試算値)の比較		
	公 務 員 (C)	民 間 (D)	C/D
三島村	円	円	
うち 用務員	円	3,284,300 円	
うち	— 円	— 円	—
うち	— 円	— 円	—

※民間データは、賃金構造基本統計調査において公表されているデータを使用している。(平成16~18年の3ヶ年平均)

※技能労務職の職種と民間の職種等の比較にあたり、年齢、業務内容、雇用形態等の点において完全に一致しているものではない。

※年収ベースの「公務員(C)」及び「民間(D)」のデータは、それぞれ平均給与月額を12倍したものに、公務員においては前年度に支給された期末・勤勉手当、民間においては前年に支給された年間賞与の額を加えた試算値である。

③教育職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
〇〇市	— 歳	— 円	— 円
〇〇県	— 歳	— 円	— 円
類似団体	— 歳	— 円	— 円

④〇〇職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
〇〇市	— 歳	— 円	— 円	— 円
〇〇県	— 歳	— 円	— 円	— 円
国	— 歳	— 円	— 円	— 円
類似団体	— 歳	— 円	— 円	— 円

(注) 1 「平均給料月額」とは、〇年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均である。

2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。

また、「平均給与月額(国ベース)」は、国家公務員の平均給与月額には時間外勤務手当、特殊勤務手当等の手当が含まれていないことから、比較のため国家公務員と同じベースで再計算したものである。

(2) 職員の初任給の状況(20年4月1日現在)

区 分		三 島 村	鹿 児 島 県	国
一般行政職	大 学 卒	161,600 円	163,590 円	172,200 円
	高 校 卒	140,100 円	133,095 円	140,100 円
技能労務職	高 校 卒	— 円	139,365 円	— 円
	中 学 卒	— 円	122,740 円	— 円
教 育 職	大 学 卒	— 円	— 円	— 円
	高 校 卒	— 円	— 円	— 円
〇 〇 職	大 学 卒	— 円	— 円	— 円
	高 校 卒	— 円	— 円	— 円

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額の状況(20年4月1日現在)

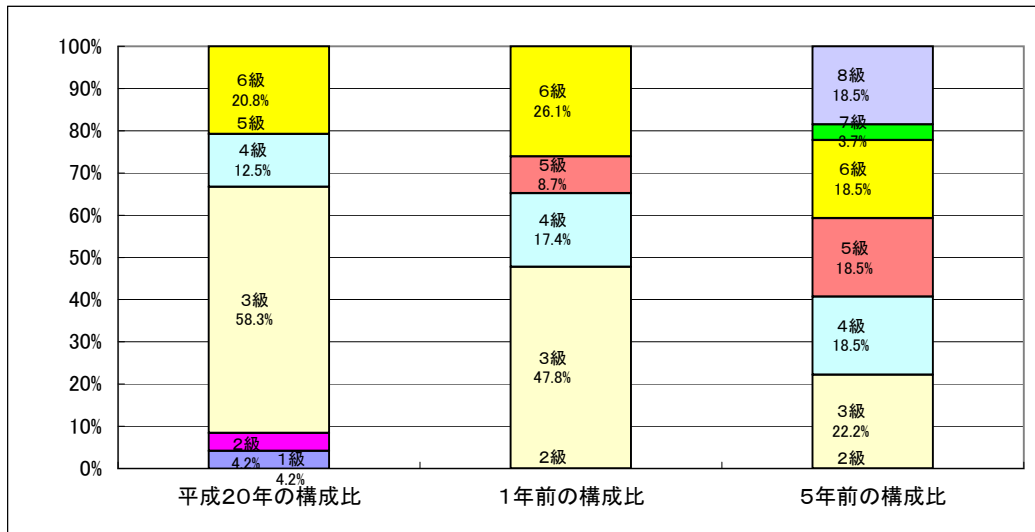
区 分		経験年数10年	経験年数15年	経験年数20年
一般行政職	大 学 卒	該当職員なし 円	254,400 円	292,600 円
	高 校 卒	該当職員なし 円	該当職員なし 円	272,900 円
技能労務職	高 校 卒	該当職員なし 円	該当職員なし 円	該当職員なし 円
	中 学 卒	該当職員なし 円	該当職員なし 円	該当職員なし 円
教 育 職	大 学 卒	— 円	— 円	— 円
	高 校 卒	— 円	— 円	— 円
〇 〇 職	大 学 卒	— 円	— 円	— 円
	高 校 卒	— 円	— 円	— 円

### 3 一般行政職の級別職員数等の状況

#### (1) 一般行政職の級別職員数の状況（20年4月1日現在）

区分	標準的な職務内容	職員数	構成比
1 級	1 主事補又は技師補の職務 2 主事又は技師(2級に掲げる主事及び技師を除く。)の職務	1 人	4.2 %
2 級	特に高度の知識又は経験を必要とする業務を行う主事又は技師の職務	1 人	4.2 %
3 級	主査又は主査の職と同等の職で規則で定める職の職務	14 人	58.3 %
4 級	係長又は係長の職と同等の職で規則で定める職の職務	3 人	12.5 %
5 級	課長(6級に掲げる課長を除く。)、議事事務局局長、各委員会の事務局の長又はこれらの職と同等の職で規則で定める職の職務	1 人	%
6 級	特に重要な業務を所掌する課長で規則で定める職の職務	5 人	20.8 %

- (注) 1 三島村の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。  
2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



- (注) 平成18年に8級制から7級制に変更している。(旧給料表の1級及び2級並びに4級及び5級をそれぞれ統合)

#### (2) 昇給への勤務成績の反映状況

- 昇給への勤務成績の反映については、従来の勤務評定による判定を行っている。(毎年12月)

#### 4 職員の手当の状況

##### (1) 期末手当・勤勉手当

三 島 村		鹿 児 島 県		国	
1人当たり平均支給額(19年度) 1,710 千円		1人当たり平均支給額(19年度) 1,761 千円		—	
(19年度支給割合) 期末手当 2.95 月分 ( 1.55 ) 月分 勤勉手当 1.45 月分 ( 0.75 ) 月分		(19年度支給割合) 期末手当 2.95 月分 ( 1.55 ) 月分 勤勉手当 1.45 月分 ( 0.75 ) 月分		(19年度支給割合) 期末手当 3.00 月分 ( 1.60 ) 月分 勤勉手当 1.50 月分 ( 0.75 ) 月分	
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～15%		(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 10%		(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 10～25%	

(注) ( )内は、再任用職員に係る支給割合である。

【参考】勤勉手当への勤務実績の反映状況（一般行政職）

--

##### (2) 退職手当（20年4月1日現在）

三 島 村			国		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	23.50 月分	32.76 月分	勤続20年	23.50 月分	30.55 月分
勤続25年	33.50 月分	41.34 月分	勤続25年	33.50 月分	41.34 月分
勤続35年	47.50 月分	59.28 月分	勤続35年	47.50 月分	59.28 月分
最高限度額	59.28 月分	59.28 月分	最高限度額	59.28 月分	59.28 月分
その他の加算措置 (退職時特別昇給 )			その他の加算措置 定年前早期退職特例措置 (2%～20%加算)		
1人当たり平均支給額 千円 千円					

##### (3) 地域手当（〇年4月1日現在）

支給実績(〇年度決算)			— 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(〇年度決算)			— 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	国の制度(支給率)	
—	— %	— 人	—	%
—	— %	— 人	—	%
—	— %	— 人	—	%
—	— %	— 人	—	%
—	— %	— 人	—	%
—	— %	— 人	—	%

(22年度の制度完成時)

支給対象地域	支給率	国の制度(支給率)
—	— %	— %
—	— %	— %
—	— %	— %
—	— %	— %
—	— %	— %

(注) 国の制度では、平成22年度での完成を目指して、平成18年度から支給率を段階的に引き上げることとしている。

(4) 特殊勤務手当 (平成20年4月1日現在)

支給実績(19年度決算)				6,679 千円
支給職員1人当たり平均支給年額(19年度決算)				303,566 円
職員全体に占める手当支給職員の割合(19年度)				45.8 %
手当の種類(手当数)				8
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価	
乗船手当	船員	乗船につき	1日につき1,200円	
機関部手当	船員(機関部)	機関部職	月額2,000円	
航海管理手当	船員	船舶運航保全責任	15,000円	
通信手当	船員	特殊無線通信事務	月額2,000円	
入渠手当	船員	入渠期間中作業	1日につき2,200円	
貨物検数立会手当	船員	貨物の積み卸し作業	月額15,000円	
船内荷役作業手当	船員	船内荷役作業	1トンにつき230円	
看護手当	看護師・保健師・獣医師	看護師・保健師・獣医師	給料月額の10%以内	

(5) 時間外勤務手当

支給実績(19年度決算)	3,656 千円
職員1人当たり平均支給年額(19年度決算)	224 千円
支給実績(18年度決算)	3,394 千円
職員1人当たり平均支給年額(18年度決算)	242 千円

(6) その他の手当 (20年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績(19年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額(19年度決算)
扶養手当		○		9,393 千円	276,265 円
住居手当		○		3,424 千円	214,000 円
通勤手当		○		1,713 千円	90,137 円
管理職手当		○		1,655 千円	331,000 円
宿日直手当		○		4,079 千円	271,320 円

## 5 特別職の報酬等の状況（20年4月1日現在）

区 分		給 料		月 額		等
給 料	村 長	570,700 円	( )	(参考)類似団体における最高/最低額		
	副 村 長	761,000 円		798,000 円 / 435,500 円		
	—	510,000 円		663,000 円 / 427,500 円		
	—	600,000 円		— 円 / — 円		
報 酬	議 長	243,000 円	( )	307,000 円 / 150,000 円		
	副 議 長	304,000 円		251,000 円 / 115,000 円		
	議 員	200,000 円		236,000 円 / 97,000 円		
	—	251,000 円				
期 末 手 当	村 長	(19年度支給割合)				
	副 村 長	3.3 月分				
	—					
	議 長	(19年度支給割合)				
副 議 長	3.3 月分					
議 員						
退 職 手 当	村 長	(算定方式)	(1期の手当額)	(支給時期)		
	副 村 長	勤続期間1年につき500/10C	15,220,000 円	任期毎		
	—	勤続期間1年につき280/10C	6,720,000 円	任期毎		
	備 考	—	— 円	任期毎		

- (注) 1 給料及び報酬の( )内は、減額措置を行う前の金額である。  
 2 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期（4年＝48月）勤めた場合における退職手当の見込額である。

## 6 職員数の状況

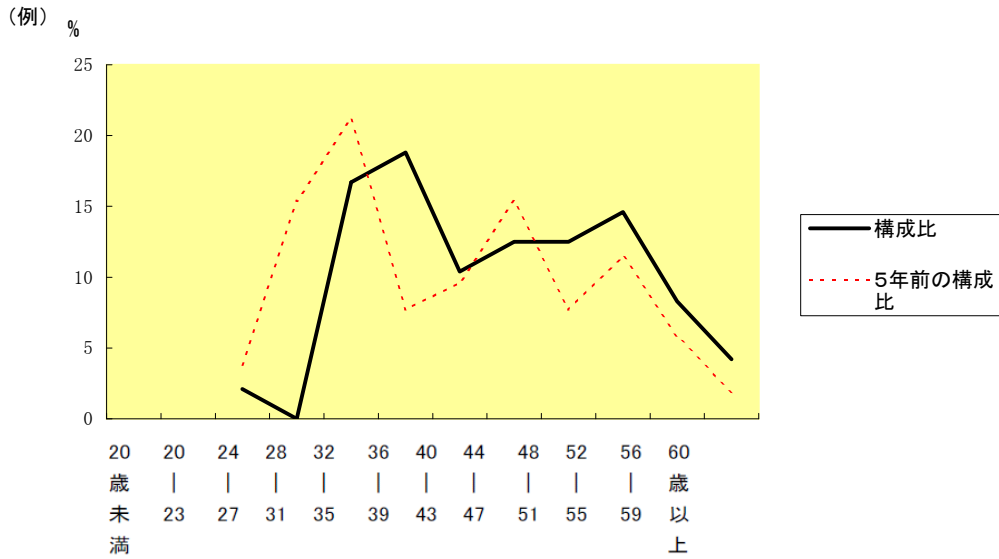
### (1) 部門別職員数の状況と主な増減理由

(各年4月1日現在)

区 分		職 員 数		対前年 増減数	主 な 増 減 理 由	
部 門		平成20年	平成19年			
普 通 会 計 部 門	一 般 行 政 部 門	議 会	1	1	0	普通退職による
		総 務	7	7	0	
		税 務	1	1	0	
		農林水産	2	3	△ 1	
		土 木	3	3	0	
		民 生	3	3	0	
衛 生	7	7	0			
	小 計	24	25	△ 1	<参考> 人口1万人当たり職員数 63.57 人 (類似団体の人口1万人当たり職員数 162.33 人)	
	教育部門	5	5	0		
	小 計	5	5	0	<参考> 人口1万人当たり職員数 74.95 人 (類似団体の人口1万人当たり職員数 198.00 人)	
公 営 企 業 計 等 部 門	船 舶	19	19	0		
	小 計	19	19	0		
合 計		[ 48 ]	[ 49 ]	[ △ 1 ]	<参考> 人口1万人当たり職員数 人	

- (注) 1 職員数は一般職に属する職員数である。  
 2 [ ]内は、条例定数の合計である。

(2) 年齢別職員構成の状況(20年4月1日現在)



区分	20歳未満	20歳～23歳	24歳～27歳	28歳～31歳	32歳～35歳	36歳～39歳	40歳～43歳	44歳～47歳	48歳～51歳	52歳～55歳	56歳～59歳	60歳以上	計
職員数	人	人	1人	人	8人	9人	5人	6人	6人	7人	4人	2人	48人

(3) 定員管理の数値目標及び進捗状況

①平成17年4月1日～平成22年4月1日における定員管理の数値目標

平成17年4月1日 職員数	平成22年4月1日 職員数	純減数	純減率
52人	48人	4人	7.69231%

(参考) 三島村における定員管理の数値目標(数・率)

計画期間		数値目標
始期	終期	
平成17年4月1日	平成22年3月31日	52名から48名へ4名の減



②定員管理の数値目標の年次別進捗状況（実績）の概要

（各年4月1日現在）

部 門	区 分	16年	17～18年	19～20年	20～22年	22年	(参考) 数値目標
		計画始期	1・2年目	3・4年目	5・6年目	計	
一般行政	職員数	26	26	25	25	25	
	増減			-1		(%)	
教 育	職員数	7	5	5	5	5	
	増減		-2			(%)	
消 防	職員数					—	
	増減					(%)	
公 営 企 業 等 会 計	職員数	19	19	18	18	18	
	増減			-1		(%)	
計	職員数	52	50	48	48	48	
	増減					(%)	

(注) 1 計画期間は、17年～22年の5年間である。  
 2 ( %)内の数値は、数値目標に対する進捗率を示す。  
 3 増減は、各年の欄にあっては対前年比の職員増減数を、計の欄にあっては計画1年目以降現年までの職員増減数の累計を示す。

7 公営企業職員の状況

公営企業職員該当無し

(1) ○○事業

① 職員給与費の状況

ア 決算

区 分	総費用	純損益又は実 質収支	職員給与費	総費用に占める 職員給与費比率	(参考) ○年度の総費用に占 める職員給与費比率
	A		B	B/A	
○年度	千円	千円	千円	%	%

区 分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
○年度	人	千円	千円	千円	千円	千円

(参考)○○○平均 一人当たり給与費 千円
-----------------------------

(注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。  
 2 職員数は、○年3月31日現在の人数である。

イ 特記事項

② 職員の基本給、平均月収額及び平均年齢の状況（○年4月1日現在）

区 分	平均年齢	基本給	平均月収額
○ ○ 市	歳	円	円
団 体 平 均	歳	円	円
事 業 者	歳		円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

③ 職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

○ ○ 市		○○ (一般行政職・団体平均等)	
1人当たり平均支給額(○年度)		1人当たり平均支給額(○年度)	
千円		千円	
(○年度支給割合)	(○年度支給割合)	(○年度支給割合)	(○年度支給割合)
期末手当	勤勉手当	期末手当	勤勉手当
月分	月分	月分	月分
( ) 月分 ( ) 月分	( ) 月分 ( ) 月分	( ) 月分 ( ) 月分	( ) 月分 ( ) 月分
(加算措置の状況)		(加算措置の状況)	
職制上の段階、職務の級等による加算措置		職制上の段階、職務の級等による加算措置	

(注) ( )内は、再任用職員に係る支給割合である。

イ 退職手当 (○年4月1日現在)

○ ○ 市			○○ (一般行政職・団体平均等)		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	月分	月分	勤続20年	月分	月分
勤続25年	月分	月分	勤続25年	月分	月分
勤続35年	月分	月分	勤続35年	月分	月分
最高限度額	月分	月分	最高限度額	月分	月分
その他の加算措置			その他の加算措置		
(退職時特別昇給 )			(退職時特別昇給 )		
1人当たり平均支給額	千円	千円	1人当たり平均支給額	千円	千円

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、○年度に退職した職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当

(○年4月1日現在)

支給実績(○年度決算)			千円
支給職員1人当たり平均支給年額(○年度決算)			円
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度(支給率)
	%	人	%
	%	人	%
	%	人	%
	%	人	%
	%	人	%
	%	人	%

(22年度の制度完成時)

支給対象地域	支給率	一般行政職の制度(支給率)
	%	%
	%	%
	%	%
	%	%
	%	%

(注) 国の制度では、平成22年度での完成を目指して、平成18年度から支給率を段階的に引き上げることとしている。

エ 特殊勤務手当（○年4月1日現在）

支給実績(○年度決算)		千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(○年度決算)		円	
職員全体に占める手当支給職員の割合(○年度)		%	
手当の種類(手当数)			
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
○○手当			日額○○円
○○手当			1件当たり○○円

オ 時間外勤務手当

支給実績（○年度決算）	千円
職員1人当たり平均支給年額（○年度決算）	千円
支給実績（○年度決算）	千円
職員1人当たり平均支給年額（○年度決算）	千円

（注）時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

カ その他の手当（○年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績（○年度決算）	支給職員1人当たり平均支給年額（○年度決算）
扶養手当				千円	円
住居手当				千円	円
通勤手当				千円	円
管理職手当				千円	円
休日勤務手当				千円	円

④ 定員管理の数値目標及び進捗状況

ア 平成17年4月1日～平成22年4月1日における定員管理の数値目標

平成17年4月1日 職員数	平成22年4月1日 職員数	純減数	純減率
人	人	人	%

（参考）○○○○○○における定員管理の数値目標（数・率）

計画期間		数値目標
始期	終期	
平成○年○月○日	平成○年○月○日	

イ 定員管理の数値目標の年次別進捗状況（実績）の概要

→6(3)②を参照

(2) △△事業

